

□議員名：恒松恵子

1 公立保育園の給食事業環境の取組について

論点	公立保育園では給食やおやつをどのように提供しているのか。
回答	給食は3園ともそれぞれの園で調理を行い、3歳未満の園児には主食と副食を、3歳以上の園児には副食のみを提供している。また、離乳食は3歳以上の献立を食べやすいように手を加えている。午後のおやつはほぼ手作りのものを提供している。

論点	保育園の衛生管理は誰が責任者となっているのか。事故が発生した場合の対応はどうなっているか。
回答	山陽小野田市公立保育園における衛生管理の手引きを作成し、その中で施設の管理者である園長が、各保育園の栄養士を衛生管理の責任者として指名している。また、事故などの緊急時に備えて3回分の食材を備蓄している。

論点	3歳以上の主食持参について、衛生管理面や保護者負担の軽減、市内産の米の活用などの観点から保育園で用意し提供することはできないか。
回答	保育園で主食を提供することの様々なメリットについて承知しているが、調理室の設備や配膳用の食器が不足している。また、主食費の負担など保護者との調整もあり、これらの課題を整理して判断していく。

論点	食材費が高騰しているとともに、調理に伴う燃料費の負担も重くなっていると思うが、限られた予算内で安心・安全な給食やおやつが提供できているのか。
回答	昨年からの食材費及び光熱費が高騰してきているが、これまでと同様の給食が提供できるよう価格高騰分については市が別途予算を措置しているため、保護者負担は据え置いたままとなっている。

2 子供の紙おむつの対応の取組について

論点	個人で持参されている紙おむつを保育園ではどのように管理しているのか。
回答	紙おむつは個人用の収納箱で管理し、おむつの交換時にそれぞれの収納箱から取り出して使用している。保護者の迎え時に、収納箱の在庫の状況を伝え、次の登園時に持参してもらっている。

論点	市が予算措置をして、おむつを必要とする保育園児に保育園で紙おむつを提供できないか。
回答	令和4年度から全ての出産した世帯を対象に子育て応援給付金を支給している。これは育児関連用品の購入に当てていただくための経済的支援として行っているため、この給付金を有効に活用してほしい。

論点	下関市では希望者に低額の支払い、いわゆるサブスクの形でおむつを業者が用意するサービスを導入したが、本市ではどうか。
回答	おむつのメーカーにこだわる家庭もある。このシステムは1社のメーカーの紙おむつを利用することになり、導入するとなれば保護者と入念に協議する必要がある。

3 放課後児童クラブの食事環境の取組について

論点	長期休業中に昼食を準備するのは朝の負担が大きい。希望する家庭に対して、市内の弁当事業者から有料で食事を提供できないか。
回答	家庭から弁当を持参することで、子供一人一人の好みや適量を用意できる。また、弁当事業者の利用については、食物アレルギーへの配慮、配達、発注やキャンセル時の対応、支払いの仕組みなど、解決すべき課題が多い。

論点	こども家庭庁では様々な食事提供事例を紹介している。本市では、まだ時期が早いのか。
回答	長期休業中における弁当の提供は、働く家庭の保護者に対しては力強い支援になると考える一方、家庭が用意した弁当を食べる児童の

	嬉しい気持ちも大切にしていきたいと考えているので、今後検討していく。
--	------------------------------------